

為替週間展望 = ドル円は108円台を中心に堅調な推移か

[9月16日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		9月9日～9月13日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	106.86	108.26(13)	106.76(9)	108.06	+1.14
ユーロ・ドル	1.1028	1.1087(12)	1.0927(12)	1.1080	+0.0051

=====

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	21,988.29	+788.72	日本10年債利回り	-0.158	+0.079
ダウ平均株価	27,182.45	+384.99	米10年債利回り	1.772	+0.211

=====

<来週の主要経済統計等>

- 16日 英9月ライトムーブ住宅価格
中国8月鉱工業生産指数、中国8月小売売上高
米9月NY連銀製造業景気指数
- 17日 豪第2四半期住宅価格指数
豪中銀(RBA)理事会議事録
独9月ZEW景況感指数
カナダ7月製造業出荷
米8月鉱工業生産・設備稼働率
米7月対米証券投資
- 18日 NZ第2四半期経常収支
日本8月貿易収支
英8月消費者物価指数、英8月生産者物価指数、英8月小売物価指数
ユーロ圏8月消費者物価指数確報値
米MBA住宅ローン申請件数
米8月住宅着工・許可件数
カナダ8月消費者物価指数
米連邦公開市場委員会(FOMC、17～18日)政策金利
パウエルFRB議長記者会見
- 19日 NZ第2四半期国内総生産(GDP)
豪8月雇用統計
日銀金融政策決定会合(18～19日)・金融政策発表
黒田日銀総裁記者会見
スイス銀行(SNB)政策金利
ユーロ圏7月経常収支
英8月小売売上高
英中央銀行(BOE)政策金利
米第2四半期経常収支
米9月フィラデルフィア連銀景況指数、米新規失業保険申請件数
米8月中古住宅販売件数、米8月景気先行指数
- 20日 日本8月消費者物価指数
独8月生産者物価指数
カナダ7月小売売上高

【前回のレビュー】米中協議再開のニュースは市場にポジティブに受け止められているが、米中協議に具体的な進展があったわけではなく、一気に上値を追う展開とはなりに

く、ドル円は106～107円台を中心とするもみ合いになるとした。

【米中の歩み寄りでリスク回避の動きが後退】

米中貿易協議の進展への期待感で、日米の株価が上昇、ドル円はドル買い円売りの動きから、徐々に上値を追う動きを見せている。米中が歩み寄りの姿勢を見せていることで、リスク回避の動きが後退している。

10日に中国の通信機器大手の華為技術（ファーウェイ）が米国に対する訴訟を一部取り下げたと報じられた。同社への制裁が緩和されれば、中国が米国産の農産物を輸入に動くという。また、10日に香港のサウスチャイナ・モーニング・ポスト紙が「中国は米国と貿易協議で米農産品の購入拡大で合意の見込み」だと伝えたことも両国の対立緩和につながった。

11日に中国共産党の機関紙である人民日報の系列で国際ニュースなどを配信する環球時報の胡編集長が中国が貿易戦争緩和に向けた措置を開始とツイートしたことなども豪ドル買いや円売りの動きにつながった。

11日のNY時間には、中国が16品目の米製品を追加報復関税から免除すると発表したこと市場では米中貿易協議への期待が高まり、NYダウは227ドル高と6日続伸、ドル円は107円台後半まで上昇した。日本時間の12日朝にトランプ米大統領が「10月1日予定の対中関税率引き上げを15日に変更」とツイートしたことが好感されて、ドル円は108円台に乗せている。12日にはNYダウが7日続伸、ドル円は108円台前半まで上昇するなど堅調な推移を見せた。

米中両国が貿易協議へ向けて、歩み寄りの姿勢を見せており、貿易摩擦や緊張緩和に動くようだと、世界的な景気減速への警戒感が後退することとなる。こうした状況は各国の株高、円売りの動きにつながりやすくなる。

13日時点でのCME FEDウォッチでは、9月17～18日の米連邦公開市場委員会（FOMC）での0.25%の利下げ確率は91%前後となっている。一時は100%近い確率だったものの、米中の摩擦改善や米経済指標に堅調なものがみられることなどから、利下げ確率は低下している。もっとも9月の利下げはほぼ確実とみられている。なお、日銀は従来と比べて追加緩和に前向きとの見方が出ており、18～19日の日銀金融政策決定会合で何らかの緩和策を打ち出してくると円売りにつながる可能性もある。

9月のFOMCでの0.25%の利下げはほぼ確実で、すでにマーケットには織り込まれているとみられる。それよりも米中貿易協議の進展への期待感の方が勝り、株高やドル買い円売りにつながる可能性が高い。米中の歩み寄り姿勢が続くようなら、ドル円は堅調な流れが継続することになりそうだ。ドル円は上昇が続いてきたこともあり、緩やかな上昇にとどまり、108円台を中心に堅調に推移するとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、106.80～109.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、16日に米9月NY連銀製造業景気指数、17日に米8月鉱工業生産・設備稼働率、米7月対米証券投資、18日に日本8月貿易収支、米MBA住宅ローン申請件数、米8月住宅着工・許可件数、米連邦公開市場委員会（FOMC、17～18日）政策金利、パウエルFRB議長記者会見、19日に日銀金融政策決定会合（18～19日）・金融政策発表、黒田日銀総裁記者会見、米第2四半期経常収支、米9月フィラデルフィア連銀景況指数、米新規失業保険申請件数、米8月中古住宅販売件数、米8月景気先行指数、20日に日本8月消費者物価指数などがある。

【ECB理事会では量的緩和再開を決定】

12日の欧州中央銀行（ECB）理事会では、市場予想の通り中銀預金金利が従来の-0.4%から-0.5%に引き下げられた。注目されていた量的緩和（QE）再開に関しては、11月から200億ユーロの国債などを買い入れることを決定した。

ユーロドルやユーロ円はECBの発表後に大きく売られたものの、その後は買い戻しの動きから大きく値を戻した。なお、ドイツやオランダはQE再開に反対を表明したもようので、今後、一段の緩和策が打ち出せなくなる可能性も指摘されている。ユーロドルは方向性を探る動きとなり、もみ合いで推移するとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0900～1.1150ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、16日に英9月ライトムーブ住宅価格、中国8月鉱工業生産指数、中国8月小売売上高、17日に豪第2四半期住宅価格指数、豪中銀(RBA)理事会議事録、独9月ZEW景況感指数、カナダ7月製造業出荷、18日にNZ第2四半期経常収支、英8月消費者物価指数、英8月生産者物価指数、英8月小売物価指数、ユーロ圏8月消費者物価指数確報値、カナダ8月消費者物価指数、19日にNZ第2四半期国内総生産(GDP)、豪8月雇用統計、スイス銀行(SNB)政策金利、ユーロ圏7月経常収支、英8月小売売上高、英中央銀行(BOE)政策金利、20日に独8月生産者物価指数、カナダ7月小売売上高などがある。

(ミンカブ 佐藤昌彦)

※投資や売買については御自身の判断でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。